

第【 1 】学年 教科【 音楽 】 担当【 】

1 学習目標

- ・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている、
- ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 使用教科書・教材

教科書 『中学音楽1 音楽のおくりもの』『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版）

副教材 『音楽のハーモニー1』（正進社） 『MY SONG』（教育芸術社）

3 学習内容および学習時期の目安

	単元名	学習内容（教科書項目名）
1 学期（4～7月）	校歌、夏の思い出、赤とんぼ、春、魔王	・曲想と歌詞の内容との関わりについて理解する。歌うための発声、言葉の発音などの技能を身に付ける。（夏の思い出・赤とんぼ） ・音楽の構造・特徴について理解する。曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、曲のよさや美しさを味わう。（春、魔王）
2 学期（8～12月）	合唱曲、箏曲「六段の調」、尺八曲「鹿の遠音」	・声部の役割を理解し、全体の響きなどを聴きながら他者と合わせて歌う技術を身に付け、歌唱表現を工夫する。（合唱曲） ・我が国の伝統音楽によるさまざまな表現の特徴とその背景となる文化や歴史を理解する。（六段の調、鹿の遠音）
3 学期（1～3月）	箏「さくらさくら」、郷土のさまざまな民謡、日本とアジアの声によるさまざまな表現	・箏の基本的な奏法を身に付ける。（箏） ・日本とアジアの声によるさまざまな表現の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、よさや美しさを味わって聴く。（民謡、日本とアジアの声）

4 評価規準およびその方法

	評価規準	評価項目・方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能の習得 ・全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史等との関わりについての理解 ・箏の基本的な奏法の技能取得	定期考査、練習の様子、実技テスト

思考・判断・表現	・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり活かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する。・曲や演奏に対する評価とその根拠や、生活や社会における音楽の意味や役割について 自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わう。	定期考査、発言内容、提出物、実技テスト
主体的に学習に取り組む態度	歌唱・器楽表現、それらを創意工夫する学習や鑑賞の学習に主体的・協働的に取り組んでいる。	授業・実技テストへの取り組み、提出物